



「(仮称) 道の駅姫路」整備基本構想

令和3年3月

姫路市

目次

1	「(仮称)道の駅姫路」の位置づけ	1
(1)	「(仮称)道の駅姫路」整備基本構想策定の背景と目的	1
(2)	上位計画における位置づけ	2
(3)	先行調査における結論	2
2	姫路市をめぐる状況	3
(1)	位置・気候	3
(2)	人口・市域	3
(3)	農業	4
(4)	漁業	4
(5)	商工業	5
(6)	観光	6
3	「道の駅」をめぐる状況	7
(1)	「道の駅」について	7
(2)	「道の駅」の基本機能	7
(3)	「道の駅」の登録要件	8
(4)	さまざまな道の駅	8
(5)	これからの「道の駅」	9
(6)	兵庫県内の「道の駅」の整備状況	11
4	整備に対するニーズと意見	13
(1)	姫路城への来訪者のニーズ	13
(2)	市民・周辺住民のニーズ	16
(3)	市内関係団体、観光関連団体及び事業者等からの意見	21
(4)	庁内関係課からの意見	22
(5)	ニーズと意見のまとめ	24
5	基本的な方向性	25
(1)	コンセプト	25

(2) 導入機能・施設の検討	26
6 候補地.....	31
(1) 候補路線.....	31
(2) 候補地の絞込み	32
(3) 候補地の選定	34
7 整備・管理運営手法.....	36
(1) 整備・管理運営手法の検討にあたり	36
(2) 事業スキームの検討.....	36
8 今後のスケジュール.....	37
資料編	38
兵庫県下における道の駅の設置状況.....	38

1 「(仮称)道の駅姫路」の位置づけ

(1) 「(仮称)道の駅姫路」整備基本構想策定の背景と目的

本市では、世界遺産・国宝姫路城を中心に国内外から多くの観光客を迎えているが、来訪手段の約7割が自動車であることから、車利用者の休憩機能や観光情報発信機能を有する道の駅の整備が求められる状況にある。

道の駅は当初、長距離の道路利用者の休憩施設として誕生したが、その後、地域住民のコミュニティの場や多くの観光客を集める地域活性化の拠点として注目を集め、地方創生には欠かせないものとなっている。

また、姫路市は広域交通の要衝であることから、緊急時の一時的避難場所、物資や人員の中継地点として機能するなど安全・安心の拠点としての役割を担っていく必要がある。

以上のことから本市の様々な地域資源と交通アクセス性を活かした観光ゲートウェイとして、道の駅基本3機能（休憩機能、情報発信機能、地域連携機能）に加え、利便性・魅力向上機能、交流機能を併せ持った「(仮称)道の駅姫路」の整備内容について検討するものである。

(2) 上位計画における位置づけ

姫路市総合計画（基本構想）

目指す都市像を「ともに生き ともに輝く にぎわい交流拠点都市 姫路」とし、「世界文化遺産・姫路城をはじめ、豊かな歴史文化や産業、自然環境に恵まれたふるさと姫路を舞台に、多様な人が、互いの命・暮らしをたいせつに想い、支え合って、力強く輝く。そして、播磨の交流拠点都市としての特長を活かし、まちとまちの連携、ヒト、モノ、情報の活発な交流を通じて、世界に誇れるまちの魅力やにぎわいを創出する、持続可能で生涯安心して暮らすことのできる都市を目指す。」としている。

この計画において「地域活力向上に向けた取組の充実」「地域経済を支える物流・交流機能の充実」「観光客に寄り添った受入環境の整備」「緊急事態発生時の即応・早期復旧体制の強化」を道の駅に関連する市の取組の方向性として掲げている。

(3) 先行調査における結論

道の駅設置可能性等基礎調査（平成 29 年 3 月）

他都市の道の駅の分析から、人気のある道の駅となるためには、年間を通じて、安定的に地元農水産物等の仕入れや供給を行うことのできる事業者や運営体制、地元住民等との連携体制が必要である。

立地候補エリアとしては、交通アクセス、競合・留意施設、土地利用規制等の観点から、3路線（山陽姫路東インターチェンジ付近の国道 372 号沿道、花田御着停車場線沿道、播但連絡道路に並行する国道 312 号沿道）が候補路線だが、競合施設の存在や市街化調整区域の建築制限などの課題がある。

整備手法や持続可能な運営方法、法規制による建築制限、周辺状況等を踏まえた候補地の絞り込みや立地可能な施設形態については、更なる調査・検討が必要である。

2 姫路市をめぐる状況

(1) 位置・気候

本市は、兵庫県の南西部、瀬戸内海に面した播磨平野の中央に位置し、市域は東西約 36 km、南北約 56 km で、総面積が約 534 km² の播磨の中核都市である。神戸市まで約 50 km、岡山市まで約 70 km、大阪市や鳥取市まで約 80～90 km の直線距離にあり、京阪神、中国、山陰を結ぶ交通の要衝となっている。

市域北部は、豊かな森林や田園が広がるとともに、標高 700～900 m 級の山並みが連なっている。市域の中南部は、世界遺産・国宝姫路城や姫路駅を中心に市街地が広がっており、山並みから切り離された丘陵が市街地内に点在している。また、市川、^{ゆめさき}夢前川、^{いほ}揖保川等の河川が南北に流れ、瀬戸内海には大小 40 余りの島が点在し、群島を形成している。

気候は、瀬戸内型気候に属し、四季を通じて温暖な日が多く、自然災害等の比較的少ない地域となっている。



電子地形図(国土地理院)を加工して作成

(2) 人口・市域

本市の人口は、535,664 人(平成 27 年(2015 年)国勢調査人口)であり、県内第 2 位、中核市の中では船橋市、鹿児島市、川口市、八王子市に次ぐ人口規模を有している。また、合計特殊出生率は全国平均を上回る 1.5 台であり、50 万人以上の市では高い水準にある。しかし、推計人口では平成 27 年(2015 年)をピークに減少に転じている。また、少子高齢化が年々進行し、生産年齢(15 歳から 64 歳)人口は、平成 7 年(1995 年)をピークに減少している一方で、平成 17 年(2005 年)以降、老年(65 歳以上)人口は年少(15 歳未満)人口を上回っている。また、核家族化の進行により増加傾向にあった世帯数は、令和 2 年(2020 年)をピークに減少に転じる見込みとなっている。本市では、令和 12 年(2030 年)時点で 51.8 万人を目指す定住人口と定め、その実現に取り組むこととしている。

市域面積は明治 22 年（1889 年）4 月の市制施行時は 3.03 km²であったが、その後合併により、昭和 11 年（1936 年）の時点で 48.49 km²に、戦後の昭和 21 年（1946 年）3 月には 106.69 km²となった。

その後も数度の合併を経て、平成 18 年（2006 年）3 月には家島町、夢前町、こうでらちょう やすとみちょう香寺町、安富町との合併により 534.27 km²となった。現在では、534.35 km²となっている。

(3) 農業

本市では、水稻が市内全域で栽培されるほか、北部を中心に、小麦や姫路ねぎ、ゆず、白小豆、そば、酒米、南部を中心に、ほうれんそうなどの葉物野菜やトマト、網干メロン、れんこん、いちじく、西部を中心に、たけのこの栽培が行われている。

また、山間部を中心に、採卵鶏や肉用牛、乳用牛の飼育などの畜産が行われている。

しかし、農業就業者数の減少と高齢化の進行、農産物価格の低迷、中山間部での鳥獣被害と相まって、耕作放棄地が増加している。本市では、農業の振興とともに、農地を保全し地域の農産物を生産する多様な担い手の育成、安全・安心な農産物を市民へ届けるための地産地消の推進、地域の活性化のための都市農村交流を含めた地域交流に取り組むとともに、鳥獣害対策についても積極的に取り組んでいる。



安富のゆず



おおいち
太市のたけのこ

(4) 漁業

本市の漁業地区は、本土臨海部とその南西約 18 km の沖合に位置する家島諸島で構成されている。主な漁業形態として、小型底びき網漁業、船びき網漁業、まき網漁業、刺網漁業などの漁船漁業と、ノリなどの藻類、マサバなどの魚類及びカキなどの貝類の養殖業がある。

水産業の振興については、「つくり育てる漁業」を目指し、クルマエビ、ヒラメ、ガザミなどの種苗の中間育成と放流、貝類の種苗放流、魚礁漁場の造成などにより水産

資源の増殖を図るとともに、養殖業の振興を支援している。また、的形地先に海釣り施設である遊漁センターを設置し、市民に憩いの場を提供している。

水産基盤の整備については、坊勢島^{ぼうせい}に市管理の坊勢漁港を有しており、安全で使いやすい漁港づくりを進めるため、漁港施設の整備及び管理を行い漁業活動における安全性の確保、漁業者の就労環境の向上、漁業活動の効率化を目指している。



ぼうぜ鯖



しらさぎはち
白鯧鱧

(5) 商工業

本市の経済は、市内総生産において製造業が大きなウェイトを占めている一方で、サービス業の比率も高まってきている。ただ、就業者の構成比をみると国や兵庫県よりも製造業に従事する人が多く、全国でも屈指のものづくり都市となっている。

市内の各地には、確かな技術と伝統に育まれ発展してきた地場産業が、脈々と受け継がれている。長い歴史を誇る皮なめし等の皮革産業、清流と最高の米から生まれた清酒、和菓子やかりんとう等の菓子産業、揖保乃糸で知られる手延素麺やそれを端緒とした乾麺の製造、国内生産量のほとんどを兵庫県が占めるマッチ産業などが挙げられる。

また、市内では優れた伝統的技術による手づくりの工芸品が今も作られており、明珍^{みょうちん}火箸^{ひばし}、姫路独楽^{こま}、しらさぎ染めなどがある。



皮革



清酒

(6) 観光

世界遺産・国宝姫路城は、本市の最大の観光資源であるとともに、市民の心のより所であり、街の象徴でもある。

本市の観光推進における大きな課題としては、姫路城の持続可能な観光活用の一層の推進、姫路城プラスワンをテーマとした新たな観光資源の提案、文化やスポーツなど、多様な資源の観光活用、海外からの観光客誘致、来訪者の滞在時間の延長などが考えられ、4つの基本政策（観光客受入環境の充実、滞在型観光の推進、インバウンド観光の推進、MICEの推進）を掲げ、課題解決に取り組んでいる。



姫路城



書寫山圓教寺

3 「道の駅」をめぐる状況

(1) 「道の駅」について

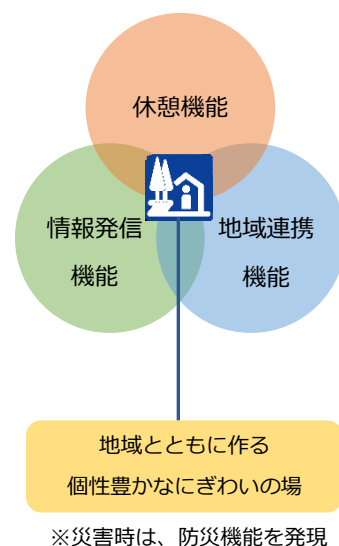
「道の駅」の制度は、平成5年に創設され、現在までに1,180駅（令和2年7月現在）が設置されており、その背景として、次のようなことが挙げられる。

- 女性や高齢者のドライバーが増加する中で、道路交通の円滑な「ながれ」を支え、一般道路にも安心して自由に立ち寄り、利用できる快適な休憩のための「たまり」空間が求められていること
- 人々の価値観の多様化に対応する沿道地域の文化、歴史、名所、特産物などの情報を活用し多様で個性豊かなサービスを提供する休憩施設が求められること
- 個性豊かなにぎわいのある休憩施設が地域の核となり、活力ある地域づくりや道を介した地域連携を促進すること

さらに、「道の駅」登録・案内要綱では「地域の創意工夫により道路利用者に快適な休憩と多様で質の高いサービスを提供する施設」を「道の駅」の基本コンセプトとし、「一定水準以上のサービスを提供できる休憩施設」を道の駅として登録すると記載している。

(2) 「道の駅」の基本機能

「道の駅」は道路利用者のための「休憩機能」、道路利用者や地域の方々のための「情報発信機能」、そして「道の駅」をきっかけに町と町とが手を結び活力ある地域づくりを共に行うための「地域連携機能」の3つの機能を併せ持つ施設をいう。



機能		必要な施設機能
基本 3 機能	休憩機能	十分な容量を持った駐車場、清潔なトイレ、子育て応援施設（ベビーコーナー等）
	情報発信機能	道路及び地域に関する情報提供（道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報等）
	地域連携機能	文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域振興施設や防災施設（感染症対策を含む）

(3) 「道の駅」の登録要件

「道の駅」として登録を受けるためには、以下の要件を満たす必要がある。

※「道の駅」登録・案内要綱より

登録要件	
設置位置	●休憩施設として利用しやすく、道の駅相互の機能分担ができる位置にあること
施設構成	●利用者が無料で利用できる十分な容量の駐車場（概ね 20 台以上） ●利用者が無料で利用できる清潔なトイレ（原則洋式、水洗で概ね 10 器以上） ●施設及び施設間を結ぶ主要な歩行経路のバリアフリー化 ●道路及び地域に関する情報を提供（道路情報、地域の観光情報、緊急医療情報等） ●乳幼児に対する授乳やおむつ交換が可能なスペース（ベビーコーナー等）
提供サービス	●駐車場・便所・ベビーコーナー・電話は 24 時間利用可能 ●案内・サービス施設には原則として案内員を配置
設置者	●市町村又は市町村に代わり得る公的な団体※ ※都道府県、地方公共団体が三分の一以上を出資する法人または市町村が推薦する公益法人
配慮事項	●女性・年少者・高齢者・障害者・妊婦や乳幼児連れ等様々な人の使いやすさに配慮 ●景観に十分配慮し、計画されていること

(4) さまざまな道の駅

「道の駅」の整備の方法は、道路管理者と市町村長等で整備する「一体型」と市町村で全て整備を行う「単独型」の 2 種類があり、令和 2 年 7 月 1 日時点では、1,180 駅のうち 646 駅（55%）が一体型、534 駅（45%）が単独型である。

また、管理運営の方法は、市町村が施設を整備し市町村が管理運営を行う「公設公営」方式、市町村が施設を整備し管理運営を民間に委託する「公設民営」、民間に施設の整備と管理運営を委託する「民設民営」の 3 種類がある。

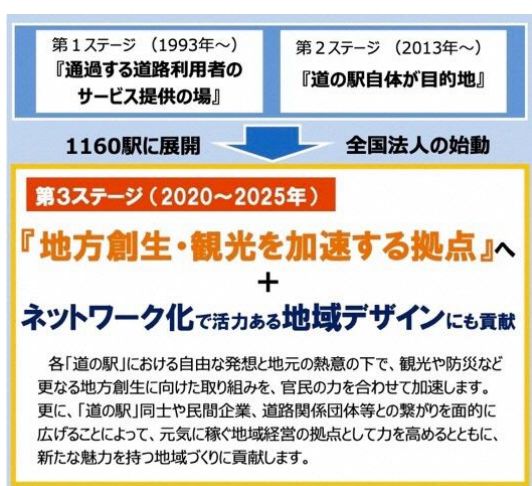
さらに、平成 26 年には「道の駅」の機能強化を図り、地域活性化の拠点とする先駆的な取り組みをモデル箇所として選定し支援する制度が制定された。そして現在までに地域活性化の拠点として、特に優れた機能を継続的に発揮していると認められた全国モデル「道の駅」が 6 駅、今後の重点支援で効果的な取組が期待できる重点「道の駅」が 103 駅選定されている。

(5) これからの「道の駅」

ア 「道の駅」第3ステージ

新「道の駅」あり方検討会は、令和元年11月に「道の駅」第3ステージを提言した。ここでは、これまでの道の駅を第1、第2ステージとして総括し、これからの「道の駅」第3ステージのコンセプトとして「地方創生・観光を加速する拠点」および「ネットワーク化で活力ある地域デザインにも貢献」の実現を目指している。

そして、令和7年（2025年）までにめざす道の駅の3つの姿を提示し、未来に向けた新たな「道の駅」の取り組みを推進している。



新たな「道の駅」のネットワーク



出典：新「道の駅」のあり方検討会 提言

【2025年に目指す3つの姿】

1. 「道の駅」を世界ブランドへ
 - インバウンド観光への対応強化
 - 周遊交通の機能強化 等
2. 新「防災道の駅」が全国の安心拠点に
 - 広域防災の機能強化
 - 地域防災の機能強化 等
3. あらゆる世代が活躍する舞台となる地域センターに
 - 子育て応援の強化
 - 民間タイアップの強化 等

イ 「防災道の駅」

近年頻発する災害に備えるため、大規模災害時の広域活動拠点となる「道の駅」を「防災道の駅」として国が認定する。初回認定は令和2年度中を予定されており、認定にあたっては、都道府県等が策定する広域的な防災計画等への位置づけが必要となる。

施設の配置にかかる要件としては、各都道府県に1～2か所（当面）、幹線道路へのアクセス性、ハザード区域の有無を考慮することが挙げられている。さらに、施設の仕様にかかる要件としては、消防や警察、緊急災害対策派遣隊等が活動できるスペースや緊急物資等の集積・供給スペース、緊急ヘリポート、一時避難所としての施設等が挙げられている。

また、「防災道の駅」として認定を受けた際の国の支援として、交付金等による重点支援や個別補助が検討されている。

「防災道の駅」の方向性(案)		国土交通省
防災道の駅		(参考) 地域の防災拠点機能をもつ道の駅
1. 他の計画での位置づけ	<ul style="list-style-type: none"> ① 都道府県が策定する広域的な防災計画 ② 新広域道路交通計画（都道府県毎に策定） （災害時のネットワーク強化と連携） 	<ul style="list-style-type: none"> 市町村が策定する地域防災計画
2. 施設の要件	<p><配置></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 各都道府県に1～2箇所選定（当面） ② 幹線道路へのアクセス性を考慮 ※高速道路 I C、直轄国道 等 ③ 災害ハザード区域の有無を考慮 ※津波、洪水、火山、土砂災害 等 <p><仕様></p> <ul style="list-style-type: none"> ① 自衛隊等の救援活動のスペース ② 緊急物資等の集積・供給スペース ③ 緊急ヘリポート ④ 一時避難所としての施設 等 	<p><配置></p> <ul style="list-style-type: none"> ・各市町村で地域の実情を踏まえて設定 <p><仕様></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一時避難所としての施設 ① ハード：耐震化、無停電設備、防災倉庫・トイレ ② ソフト：災害協定、防災訓練、BCP策定
3. 支援	<ul style="list-style-type: none"> ① 「防災道の駅」として大臣認定 ② 交付金等での重点支援 （個別補助についても検討） 	<ul style="list-style-type: none"> ① 「道の駅」の登録要件に努力規定として追記 ② 重点「道の駅」で他機能とあわせて重点支援

出典：国土交通省公表資料

(6) 兵庫県内の「道の駅」の整備状況

ア 兵庫県内における整備状況

兵庫県下には、令和2年7月現在、35駅の道の駅がある。地域別で見ると但馬地域が12駅と最も多く、次いで西播磨地域の8駅となっている。姫路市を含む中播磨地域では1駅となっている。



兵庫県内地域別道の駅設置数

地域名	設置数
阪神北	1
阪神南	0
神戸	2
淡路	4
丹波	2
但馬	12
北播磨	5
東播磨	0
中播磨	1
西播磨	8

電子地形図(国土地理院)を加工して作成

イ 姫路市周辺における整備状況

姫路市周辺では、姫路城などのある市中心部からほぼ20km圏内には「道の駅」が無く、概ね30kmの同心円上に多く立地している。



電子地形図(国土地理院)をもとに近畿道の駅HP説明文を追記して作成

【姫路市周辺の道の駅の概要】（県下全体については資料編参照）

※国土交通省近畿地方整備局 HP をもとに作成（一部 全国道の駅連絡会、各駅公式 HP を参照）

駅名	所在地	地域	道の駅登録	主な機能・特徴	駐車台数				トイレ			
					普通車	大型車	障害者	その他	男性	女性	多目的	
しんぐう	たつの市	西播磨	第11回	H8.8	・レストラン ・物産館	17	4	1	EV充電器	8	7	2
みき	三木市	北播磨	第14回	H10.4	・レストラン ・特産品売場 ・土産品売場 ・金物展示館	180	18	3		21	20	2
播磨いちのみや	宍粟市	西播磨	第15回	H11.8	・レストラン ・売店 ・郷土芸能展示室 ・観光コンシェルジュ	36	2	2		8	6	1
北はりまエコミュージアム	西脇市	北播磨	第17回	H13.8	・レストラン ・物産販売コーナー	50	3	2		6	4	1
あいおい白龍城	相生市	西播磨	第17回	H13.8	・レストラン ・特産品売場 ・温泉	46	2	3	EV充電器：1	8	4	3
みつ	たつの市	西播磨	第32回	H21.7	・展望レストラン ・物産販売所	100	6	2	EV充電器：1	6	4	2
山田錦発祥のまち・多可	多可町	北播磨	第44回	H27.11	・軽食 ・特産品農産物直売所 ・休憩所	22	4	2	EV充電器	4	5	1
銀の馬車道・神河	神河町	中播磨	第47回	H29.4	・軽食 ・売店（アンテナショップ等）	21	7	2	EV充電器	7	7	1

4 整備に対するニーズと意見

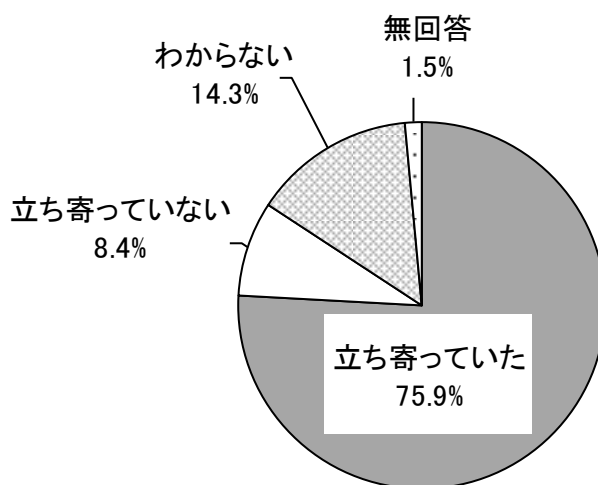
(1) 姫路城への来訪者のニーズ

調査の概要

- 対 象：姫路城に自家用車で来られた方
- 方 法：対面により実施（来訪者が調査票に記入）
- 調査日：2020年（令和2年）10月3日（土）～4日（日）
- 場 所：姫路城大手門駐車場出入口
- 回答数：203件
居住地：姫路市隣接市町 26、その他兵庫県内 44、その他近畿圏 58、その他全国 75
性別：男性 101、女性 102
年齢：20代以下 20、30代 25、40代 54、50代 59、60代 36、70代以上 8、無回答 1

ア 立ち寄り意向

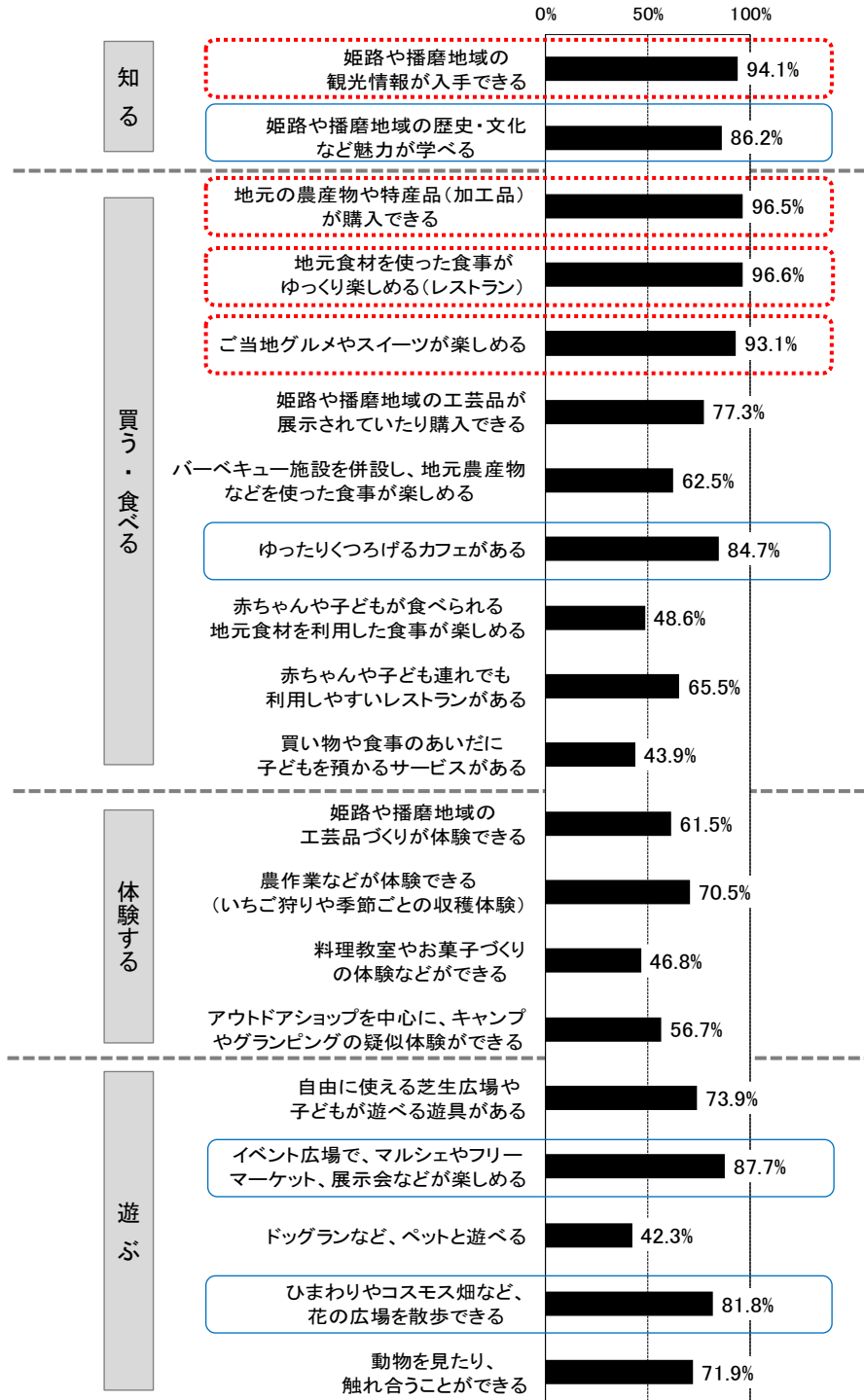
整備候補地内（調査で図示及び口頭で説明）に、もし希望する機能を備えた道の駅があった場合に、本日立ち寄ったかの設問に約76%が「立ち寄っていた」と回答しており道の駅への立ち寄りニーズは高い。



「(仮称) 道の駅姫路」への本日の立ち寄り意向
(希望する施設や機能・サービスがあった場合) (n=203)

イ 利用したい施設や機能・サービスの傾向

道の駅があった場合の利用したい施設や機能・サービスについて、全体的にニーズが高く、90%以上の項目では地元食材や特産品の飲食や購入、姫路や播磨地域の観光情報の入手、80%台の項目ではイベント広場でのマルシェなどの催し、カフェ、姫路や播磨地域の歴史文化の学習、花の広場の散歩となっている。



※「ぜひ利用したい」、「利用したい」の合計

「(仮称)道の駅姫路」で利用したい施設や機能・サービス (n=203)

ウ 来訪時の高速道路インターチェンジ等利用傾向

- (ア) 全体では、山陽自動車道姫路東インターチェンジ（以下、IC）が約26%と最も多く、播但連絡道路花田ICと合わせて東部のICの利用が多いことがわかる。
- (イ) 回答者の居住地別にみると、姫路市近隣市町では、姫路バイパス姫路南ランプが最も多く、次いで一般道となっている。その他兵庫県内、その他近畿圏内、その他全国ではいずれも、山陽姫路東ICが最も多くなっている。
- (ウ) 方面別では、東方面や南方面の利用割合が高い傾向である。

来訪にあたり利用する高速道路のインターチェンジ等

回答者の居住地	回答数	東		西		南			北	その他			
		①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩		
		山陽姫路東IC	山陽自動車道	山陽姫路西IC	山陽姫路東ランプ	姫路東ランプ	姫路南ランプ	姫路南ランプ	中地路ランプ	砥堀ランプ	播但連絡道路	一般道のみ	無回答等・その他
行きに利用したインターチェンジ等													
姫路市近隣市町	26	3.8%	0.0%	0.0%	3.8%	11.5%	26.9%	3.8%	0.0%	23.1%	23.1%		
その他兵庫県内	44	25.0%	6.8%	4.5%	2.3%	11.4%	11.4%	11.4%	6.8%	11.4%	9.1%		
その他近畿圏内	58	32.8%	12.1%	6.9%	3.4%	15.5%	13.8%	1.7%	3.4%	0.0%	10.3%		
その他全国	75	28.0%	5.3%	21.3%	0.0%	1.3%	10.7%	5.3%	4.0%	8.0%	11.9%		
全体	203	25.6%	6.9%	10.8%	2.0%	8.9%	13.8%	5.4%	3.9%	8.4%	12.4%		
		32.5%		12.8%		28.1%			3.9%	20.8%			
帰りに利用予定のインターチェンジ等													
姫路市近隣市町	26	3.8%	0.0%	0.0%	3.8%	15.4%	19.2%	7.7%	0.0%	23.1%	15.4%		
その他兵庫県内	44	27.3%	2.3%	0.0%	0.0%	13.6%	13.6%	9.1%	4.5%	9.1%	9.1%		
その他近畿圏内	58	25.9%	10.3%	5.2%	5.2%	10.3%	15.5%	0.0%	3.4%	1.7%	12.1%		
その他全国	75	28.0%	5.3%	16.0%	0.0%	1.3%	17.3%	5.3%	8.0%	5.3%	9.3%		
全体	203	24.1%	5.4%	7.4%	2.0%	8.4%	16.3%	4.9%	4.9%	7.4%	10.8%		
		29.5%		9.4%		29.6%			4.9%	18.2%			



電子地形図(国土地理院)を加工して作成

(2) 市民・周辺住民のニーズ

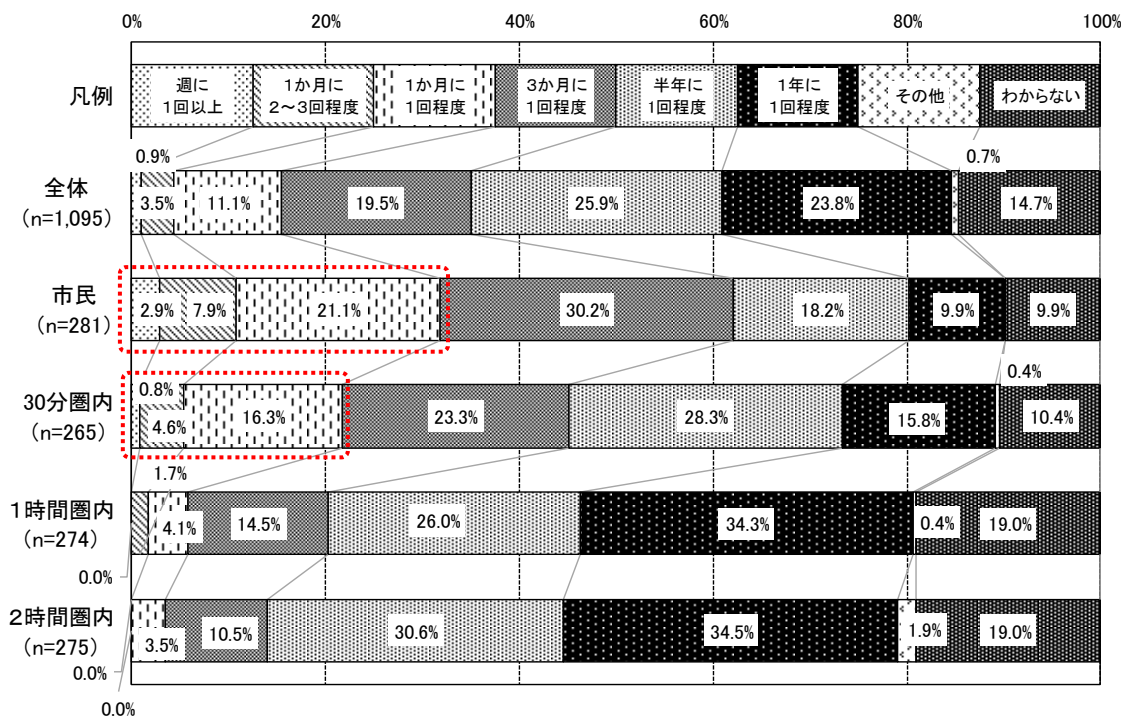
調査の概要

- 対 象：①市民、②30分圏内（隣接市町）、③1時間圏内（神戸市、西宮市）、④2時間圏内（大阪市）に在住し、家族内に自家用車があり、かつ、姫路市への来訪経験がある方
- 方 法：インターネットにより実施
- 調査日：2020年（令和2年）10月9日（金）～13日（火）
- 回答数：1,095件（①～④の区分、性別、年代（20代から10歳単位で60代以上まで）を概ね均等に抽出）

ア 利用傾向

(ア) 利用したい施設や機能・サービスが備わった道の駅が整備された場合、全体でも8割以上が「1年に1回以上」、3割以上が「3か月に1回以上」の利用を考えている。

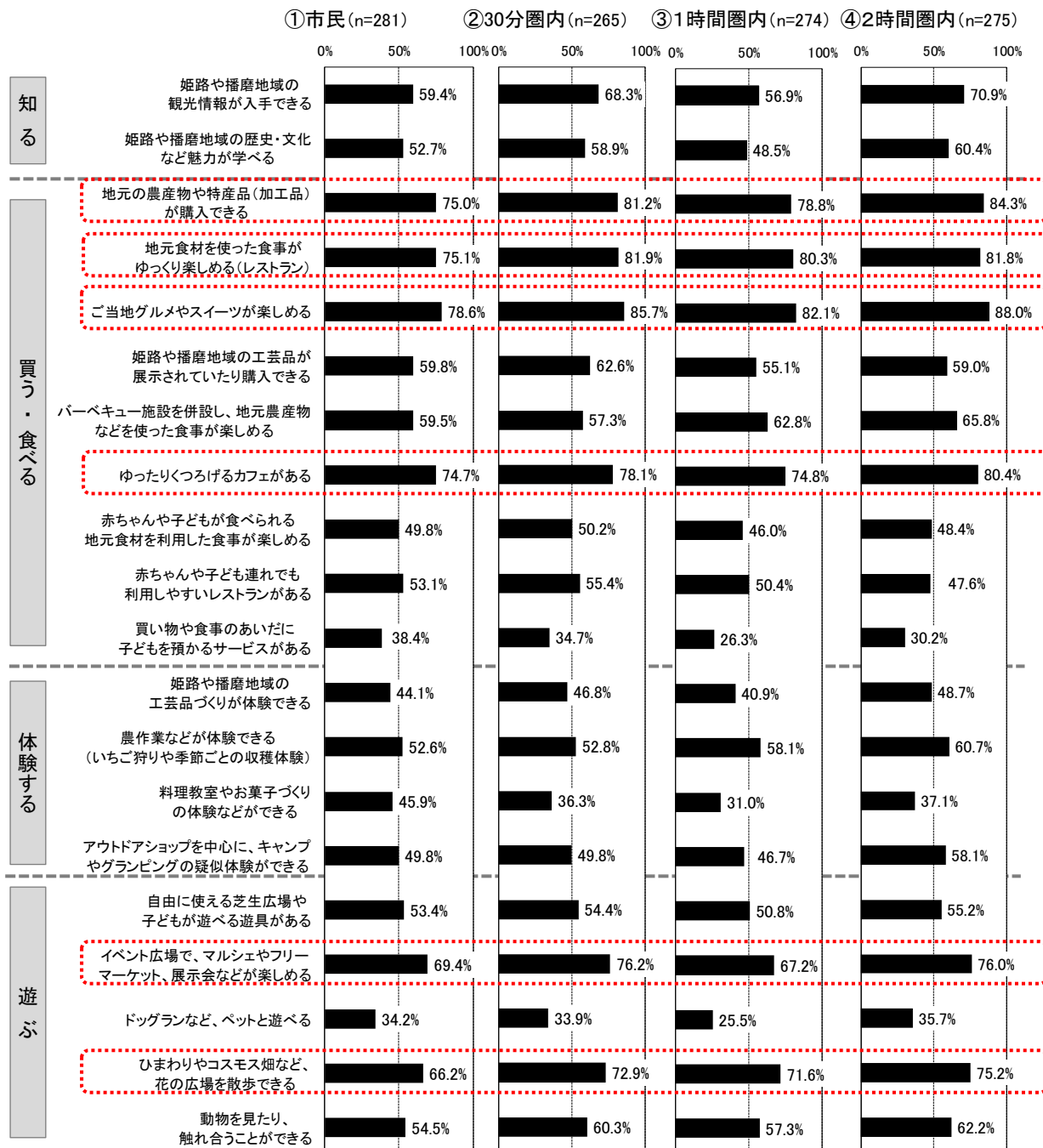
(イ) 姫路に近いほど利用傾向が高くなっており、市民では「1か月に1回以上」が約3割、30分圏内では約2割を占めている。



「(仮称) 道の駅姫路」が整備された場合の利用傾向

イ 利用したい施設や機能・サービスの傾向（回答者居住地エリア別）

(ア) エリアに関わらず共通して、地元の食が楽しめる（買える）機能・サービス、カフェ、マルシェやフリーマーケット、花の広場を散歩できるなどで人気が高い。

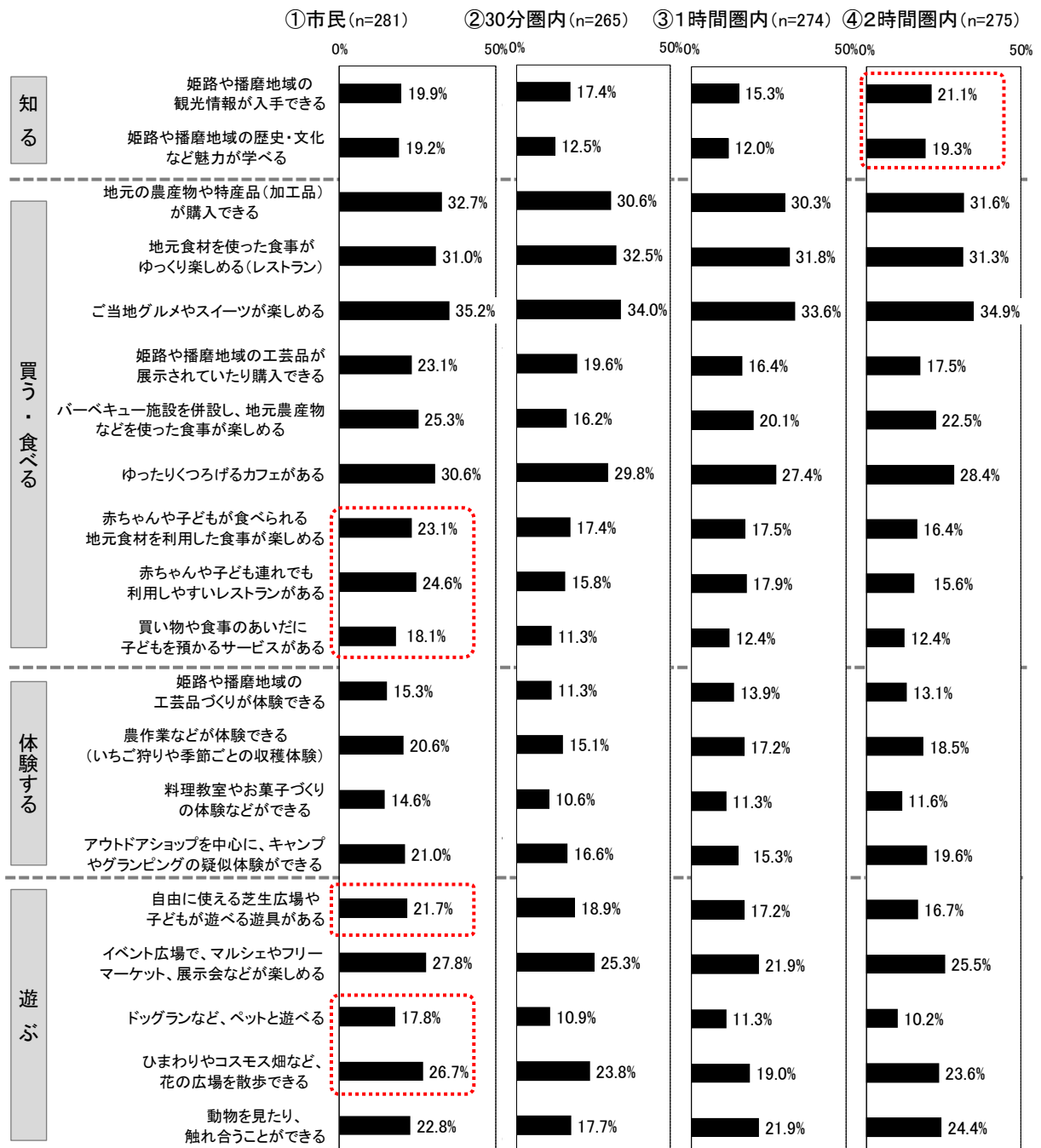


「(仮称)道の駅姫路」で利用したい施設や機能・サービスの傾向（回答者居住地エリア別）

※ 「ぜひ利用したい」、「利用したい」の合計

(イ) 回答を「ぜひ利用したい」に限定すると、姫路市民では、子ども連れでの食事やレストラン、芝生広場や遊具、花の広場などが、他のエリアに較べて人気が高くなっている。

(ウ) 一方、2時間圏内とやや遠方のエリアでは姫路や播磨地域の観光情報や歴史文化などが学べる項目の人気が高くなっている。

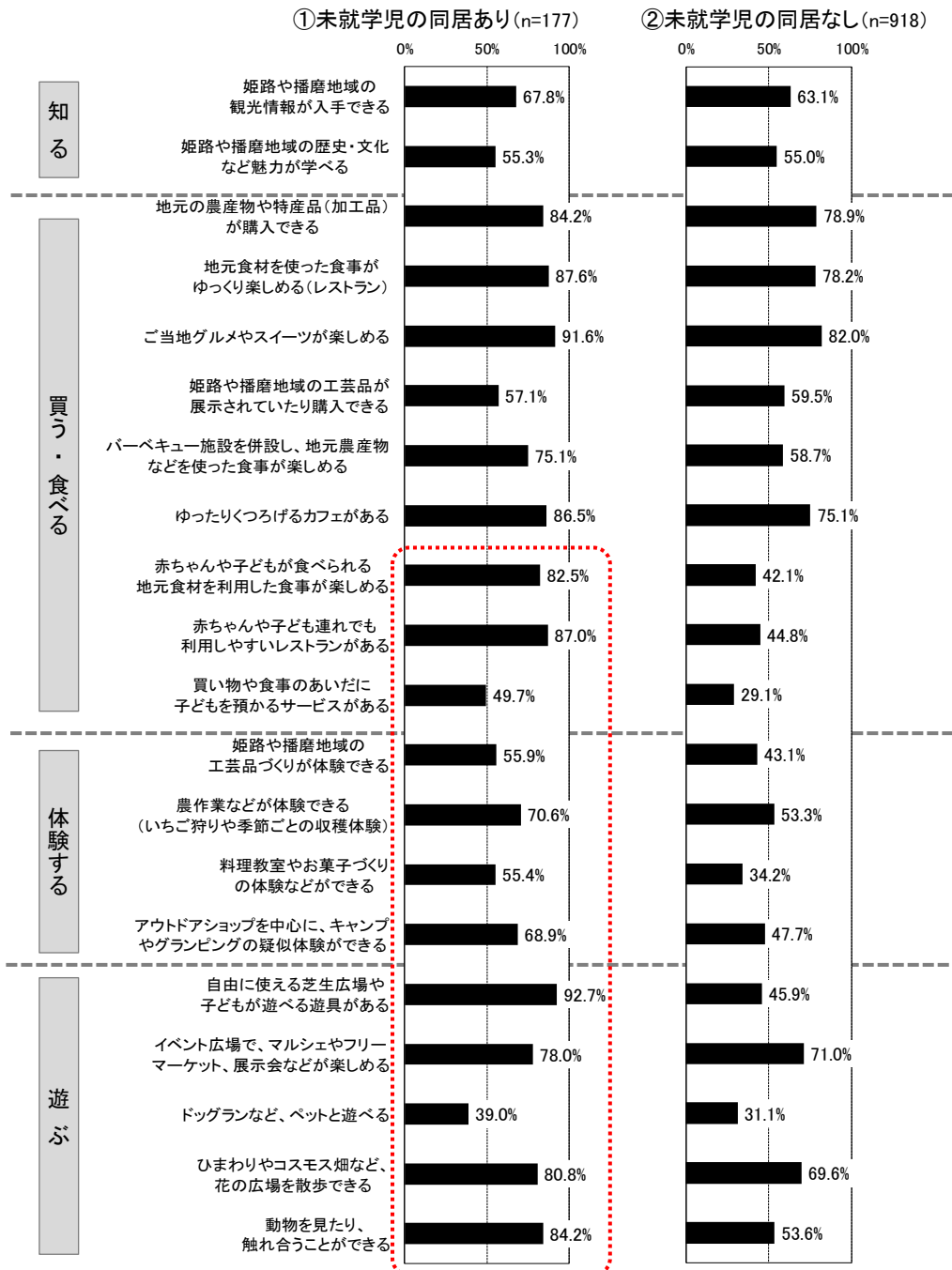


「(仮称)道の駅姫路」で利用したい施設や機能・サービスの傾向(回答者居住地エリア別)

※「ぜひ利用したい」のみ

ウ 利用したい施設や機能・サービスの傾向（未就学児の同居有無別）

未就学児と同居している回答者は、同居していない回答者に比べて全体的に利用意向が高い。特に、子ども連れでも利用しやすい飲食施設、体験プログラム、芝生広場や遊具などの遊び施設での利用意向では、その割合が高い。

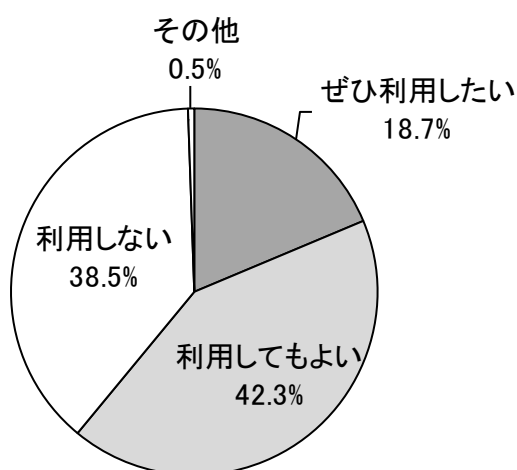


「(仮称)道の駅姫路」で利用したい施設や機能・サービス（未就学児の同居有無別）

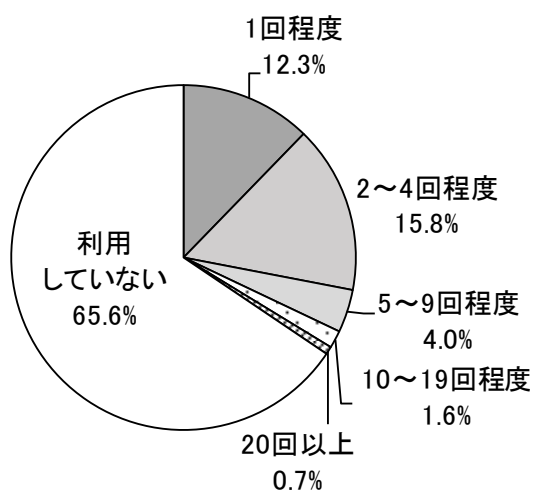
※「ぜひ利用したい」、「利用したい」の合計

工 関西国際空港や大阪伊丹空港への高速バス乗り場の利用意向

市民、30分圏内在住者を対象に道の駅に自家用車を無料で駐車できる場合を想定してアンケートを実施したところ、「(仮称)道の駅姫路」に、関西国際空港や大阪伊丹空港への高速バス乗り場を設置した場合の利用意向は約6割(「ぜひ利用したい」が約19%、「利用してもよい」が約42%)となっており、一定の需要があるものとする。



関西国際空港や大阪伊丹空港への高速バス乗り場の利用意向 (n=546)



【参考】ここ5年間での関西国際空港や大阪伊丹空港の利用回数 (n=546)

(3) 市内関係団体、観光関連団体及び事業者等からの意見

道の駅に関係すると考えられる市内の関係団体や観光関連団体、事業者等にヒアリング調査を行った。その結果の要点を以下に示す。

ア 道の駅の特徴や機能について

- (ア) 道の駅としての特徴をどう出すかが課題である。例えば、駐車場+大型施設ではなく、商店街のように多様な個店があり、回遊性があり、市内の地場の新鮮野菜と魚介類が揃い、食べながらコミュニケーションをとれるなど。
- (イ) 新しい道の駅への関わりや出店、商品提供等について関心のある市内の事業者はあるだろう。
- (ウ) 平日は周辺住民、休日は観光客と客層が異なることが想定されるが、持続可能な道の駅にするためには平日も重視したコンセプトや運用をした方がよい。
- (エ) 市内の既存の商業施設を圧迫する機能は控えた方がよいだろう。
- (オ) 播磨地域（13市9町）では日本酒でGI（地理的表示保護制度）の指定を受けており、そのPRや活用場として新しい道の駅を使うとよい。
- (カ) 訪ねて面白い道の駅が重要で、道の駅の建築物自体を魅力的にして、集客することも考えられるし、大規模、アウトドア、遊び場などをキーワードとしてアピールするのもよい。
- (キ) 農産物の直売機能について、市内の野菜や果物の生産量はそれほど多くなく、新規に直売所ができた場合、商品を集められるかどうかは課題である。播磨全域からの集荷も考える必要がある。また、既存店舗では日常使いの農産物が多いが、道の駅の場合、観光客向けの商品開発も課題である。

イ 観光の現状について

- (ア) 姫路駅からの空港行きリムジンバスは関空便と伊丹便があり、新しい道の駅でのパーク&バスライドの可能性について今後検討の余地はある。
- (イ) 観光バスでの姫路城への行き帰りには、姫路バイパス経由もあるので、道の駅の場所次第では適切な誘導が必要である。
- (ウ) バスツアーで多いのは、姫路城を見学して、その後、家老屋敷館のお土産店等で買い物をして別の場所に行くケースである。昼食の立ち寄り先は、受入れ人数の関係で観光バスが立ち寄れる限られたお店になっている。一定以上のキャパシティがある新しい道の駅ができれば立ち寄る可能性は高い。

- (工) 姫路の観光の弱点は「食・お土産」。道の駅で「地産地消」や「食」をテーマにして、お土産物が揃っていることを打ち出すといいのではないかと。
- (オ) 姫路城を訪問する教育旅行が一定数あるので、新しい道の駅がトイレ休憩や買い物などで、その立ち寄り先となる可能性は充分にある。また、姫路に早く着いた場合の時間調整に加えて、姫路城訪問前に学習ができる場や、ガイドが乗り込んで姫路城に着くまでに説明するなど考えられる。
- (カ) 新しい道の駅が姫路観光ツアーのバスの発着地になるとともに、地元品や特産品を買える場所にしたい。例えば、眺めながら、食べながら乗車できるオープントップバスやレストランバスを活用し、姫路市内の各所を周遊する拠点とすることも考えられる。
- (キ) 現在の来訪者の多くが、姫路城以外の観光資源や魅力を知らずに帰っている場合が多いので、姫路市内や播磨地域の情報を案内する機能が必要である。
- (ク) 道の駅の駐車場は大型観光バスが止めやすく、安全に乗降できることなどが重要である。

(4) 庁内関係課からの意見

道の駅に関係する庁内関係課へのヒアリングとアンケート調査を行った。その結果の要点を以下に示す。

ア 観光関係

- (ア) 道の駅は車で姫路城に来た方の観光ゲートであるため、姫路市内や播磨地域の観光資源に関する情報提供をすることも必要。チケットの前売り券や複数の施設の周遊券的なものの販売などもあればよい。
- (イ) 姫路を訪れた方の最後の立ち寄り場所とも捉えるべきである。「食」は有力な観光資源であるがそれらを1か所で販売、提供できる施設がない。魅力的な食の開発と共に、その場で地のものを食べたり、体験したりできる機能を期待する。
- (ウ) 神戸北部からは山陽道、南部からはバイパス、大阪からは山陽道、播但道経由でバイパスに降りる人が多い。道の駅への適切な誘導が必要である。
- (エ) サイクルスタンドなどサイクルツーリズム向けの設備等があっても良い。

イ 商工関係

- (ア) 広域の取組みは、姫路市が中心になって進めているので、播磨地域も視野に入れた方がよい。
- (イ) 姫路駅南口前にある播磨地域の物産店である「播産館」のような機能を道の駅でも持たせて、自動車利用者にも特産物をアピールすべきである。
- (ウ) 姫路市の特産品は、革製品、乾麺、酒、菓子などが考えられるが、特に革製品については、革張りの椅子などを家具として利用して触れてもらったり、体験工房や商品の販売も期待される。
- (エ) 「播磨は日本酒のふるさと」として GI の指定を受けている清酒についても、播磨地域として打ち出したいテーマである。
- (オ) 食に制限のある人を想定して、ヴィーガンやムスリムフレンドリーな食品などを取り扱ってはどうか。

ウ 農業関係

- (ア) 市内には JA 兵庫西を始めとして農産物直売所が多数ある。市内農家は全般的に高齢化・担い手不足となっている。道の駅に直売機能を設けた場合、供給体制の確保は課題である。
- (イ) 白浜地区に移転する姫路市中央卸売市場に、一般客向けのにぎわい施設が設置される計画であり、互いに個性を出し合う必要がある。
- (ウ) 市内農産物の特産品としては、れんこん、たけのこ、トマト、ほうれんそう、姫路ねぎ、網干メロン、いちご、ゆず、いちじく、葉物野菜などがあり、その活用は期待される。

エ その他

- (ア) 出張所機能（住民窓口センター等）
- (イ) フードバンク活動の拠点（倉庫、道の駅から発生する余剰食品の活用等）
- (ウ) 電気自動車用急速充電設備、水素ステーションの設置
- (エ) 省エネ、脱炭素施設、エネファーム、太陽光発電、蓄電システム等
- (オ) 障害者就労施設等が供給する物品の販売機能
- (カ) 地域包括支援センター
- (キ) 子育て支援拠点

(5) ニーズと意見のまとめ

- ア 姫路城への来訪者では、道の駅への立ち寄りニーズが高い。
- イ 市民と大阪や神戸を含む周辺住民が希望する道の駅の機能は、地元の食が楽しめる・買える、カフェ、マルシェやフリーマーケット、花の広場を散歩できるなどの人気が高い。
- ウ 特に、未就学児と同居している回答者は、同居していない回答者に比べて全体的に利用意向が高く、赤ちゃんや子どもが食べられる地元食材を利用した食事が楽しめる、自由に使える芝生広場や子どもが遊べる遊具があるなどの人気が高い。
- エ 新しい道の駅ができた場合の利用頻度については、3か月に1回以上が姫路市民で6割程度、30分圏程度の隣接市町で4割程度となっており、それぞれの約半数は1か月に1回以上と回答している。日常的なにぎわいを生み出すためには、市民や周辺住民の利用も視野に入れることが重要である。
- オ 空港への高速バス乗り場の利用意向は、「ぜひ利用したい」と「利用してもよい」を合わせると6割となり、需要が一定あることがわかった。
- カ 市内の関係団体や観光関連団体、事業者等からは、観光情報拠点や、市内の特徴的な農産物や水産物、加工品、工芸品などの販売拠点、播磨圏域との連携などの期待やニーズがある。
- キ 市役所内からは、観光案内、出張所機能、次世代自動車に対応した設備、障害者就労施設等が供給する物品等の販売、子育て支援拠点等の機能配置のニーズがある。

5 基本的な方向性

(1) コンセプト

本構想では、前項までに示した本市をめぐる状況や道の駅整備に対するニーズ等を踏まえ、「(仮称)道の駅姫路」のコンセプトと基本方針を以下に設定する。

播磨^{みりよく}の実力にあふれ、世代・地域を越えた交流を生み出す道の駅

【基本方針】

ア 播磨^{みりよく}の実力ある産品があふれ

触れることのできる 魅力的な場

多種多様な地場産品の紹介・販売を通して、地域経済拠点の形成につなげます。



イ こどもが楽しめ 三世代が楽しめる

世代を越えた交流の場

市内こども関係施設との連携等により、子育て世代～三世代に新たな魅力をPRします。



ウ 観光客や市民が集う

地域を越えた交流の場

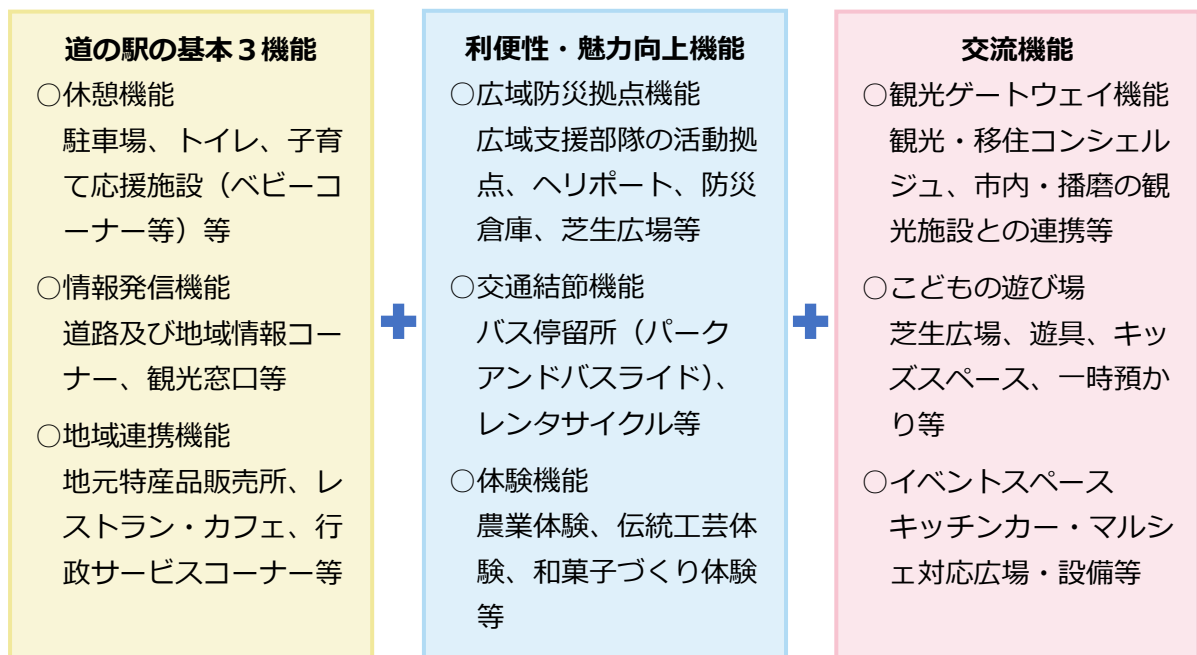
観光客と市民の交流を通じ、本市の魅力向上・PR、さらには定住・移住促進を図ります。



播磨の^{みりよく}実力とは、豊かな自然の恩恵やそこで培われた人々の技や創意を生かした農産物、海産物、加工品、工芸品など、歴史・文化・技が育んだ播磨のすぐれた地場産品が人々を惹きつけること。例えば、GIに指定された「はりま」の清酒をはじめとする、播磨の先人たちの技術を受け継ぐ醤油、みりん、麴などの醸造文化や、豊かな大地が育む農水産物、有名ブランドも使用する姫路でなめされた皮革などの豊かさに恵まれています。

(2) 導入機能・施設の検討

コンセプト及び基本方針を踏まえ、以下の機能・施設の導入が考えられる。



ア 道の駅の基本3機能

(ア) 休憩機能

利用者が自由に立ち寄り、快適に休憩できる場所の提供

【具体的な機能例】 24時間無料で利用できる駐車場、トイレ、子育て応援施設（ベビーコーナー）等



駐車場
(道の駅奥河内くろまるの郷)



ベビーコーナー
(道の駅米沢)

(イ) 情報発信機能

道路利用者や地域の方々のために、道路交通情報や地域情報を発信する場所の提供

【具体的な機能例】 道路及び地域情報コーナー、観光窓口等



道路及び地域情報コーナー
(道の駅パレットピアおおの)



地域情報コーナー
(道の駅米沢)

(ウ) 地域連携機能

豊富な地域資源を活用し、活力ある地域づくりにつながる場所の提供

【具体的な機能例】 地元特産品販売所、レストラン・カフェ、行政サービスコーナー等



地元特産品販売所
(道の駅神戸フルーツ・フラワーパーク大沢)



地産地消レストラン
(道の駅奥河内くろまるの郷)

イ 利便性・魅力向上機能

(ア) 広域防災拠点機能

大規模災害時の広域的な復旧・復興活動拠点となる場所の提供



【具体的な機能例】 広域支援部隊の活動拠点、ヘリポート、防災倉庫、芝生広場等

国土交通省

(参考) 広域的な防災計画に位置づけられた道の駅の例①


○「道の駅」パレットピアおおの (岐阜県大野町)

【位置図】


【広域的な防災拠点としての主な役割】

- ・ 消防、警察、自衛隊の活動拠点スペース
- ・ 広域医療搬送のためのヘリコプター臨時離着陸場
- ・ 災害応援要員の指令拠点となる施設



(参考)

- ・ 岐阜県では、東海環状自動車道の沿線市町に、広域防災拠点を「道の駅」も含めて10箇所指定。



【災害リスクへの対応】

- ・ 浸水エリア内に位置しているが、土地の高上げ(1.5~2.0m)、排水ポンプなどの対策を実施済み

道の駅パレットピアおおの
(出典：国土交通省資料「道の駅」の防災機能強化について)

(イ) 交通結節機能

広域交通の要衝という立地性や観光客・地域住民等の利用ニーズを踏まえ、交通利便性の向上に資する機能の提供

【具体的な機能例】 バス停留所 (パークアンドバスライド)、レンタサイクル等



レンタサイクル (スポーツバイク)
(大津駅観光案内所)

(ウ) 体験機能

本市の豊富な地域資源を活用し、観光客や地元住民が体験を通じて本市をより一層知ってもらう場所の提供

【具体的な機能例】農業体験、伝統工芸体験、和菓子づくり体験等



農業体験（いも掘り）



伝統工芸体験（レザークラフト）



和菓子づくり体験

ウ 交流機能

(ア) 観光ゲートウェイ機能

自動車で来訪する観光客が本市を最初に訪れる玄関口として、市内及び播磨地域の情報の提供

【具体的な機能例】 観光・移住コンシェルジュ、
市内・播磨の観光施設との連携等



観光コンシェルジュ
(道の駅飛鳥)

(イ) こどもの遊び場

子どもを連れたファミリーが利用しやすいよう、子どもが遊べる場所の提供

【具体的な機能例】 芝生広場、遊具、キッズスペース、一時預かり等



芝生広場
(網干なぎさ公園 (姫路市))



遊具
(エコパークあぼし (姫路市))

(ウ) イベントスペース

有事の際は復旧・復興活動拠点、また、平常時にはにぎわい創出のためのイベントやフリーマーケットに活用できる屋外空間の提供

【具体的な機能例】 キッチンカー・マルシェ対応広場・設備等



キッチンカー
(道の駅バレットピアおおの)

6 候補地

(1) 候補路線

平成 28 年度に実施した「道の駅設置可能性等基礎調査」において、道の駅の立地環境、交通アクセス、競合・留意施設、土地利用規制などの点から、山陽姫路東 IC 付近の国道 372 号沿道、花田御着停車場線沿道及び播但連絡道路に並行する国道 312 号沿道を候補路線（エリア）として評価した。

また、観光客が利用するルートとして、上記 3 路線のほかに山陽姫路東 IC から市道谷外 83 号線を通るルートがあるが、令和元年度に実施した「山陽姫路東 IC 周辺他交通解析」により大型観光バスのすれ違いが困難な箇所があるため、候補路線の対象外とした。



電子地形図（国土地理院）を加工して作成

(2) 候補地の絞り込み

前述の3候補路線において、農業振興地域や土砂災害警戒区域などを含まないある程度まとまった土地を確保できる場所として、下記地図中の①国道372号沿線（播但連絡道路東側）、②国道312号沿線（国道2号以南）、③国道372号沿線（花田町小川付近）、④花田御着停車場線沿線（花田IC付近）を抽出し、道の駅に求められる集客性、事業実現性、周辺環境の観点から、それぞれの地点の特徴を整理し、考察・評価を行った。



ア 集客性については、①と③は国道 372 号沿道で前面道路交通量が多く、山陽姫路東 IC・花田 IC と市中心部を結ぶルート上に位置しているためアクセスは良い。また、①と④は花田 IC に近接している。一方、②と④は山陽姫路東 IC・花田 IC と市中心部を結ぶルートから外れているため、アクセス性は①と③と比較するとやや劣る。他、①と④は周辺に建物が少なく農地が開けていることから視認性が良い。交通環境はいずれも良好で、①は歩道が広く道路拡幅にも対応できる余地がある。以上のことから、①の集客性が高いと言える。

イ 事業実現性については、まとまった用地を確保できるという観点から、面積・現況用途・敷地の形状・用地買収コストなどを比較すると①と④が良い条件を備えている。安全性の観点からは、①と④が浸水想定区域外で安全性が高い。土砂災害警戒区域については、②、③、④は区域外、①は一部が区域内だが選定場所によっては避けることができるため、条件は変わらない。法規制においては、①と④が市街化調整区域内であるため関係各所との協議は必要であるが、他の条件での制限はほとんど変わらない。以上のことから、①と④の事業実現性が高いと言える。

ウ 周辺環境については、いずれの候補地周辺にもコンビニやスーパー等が立地しているが、①は一部に民家や店舗が存在するものの、ほとんどが農地であるため、集落や住宅地等の住環境に対する影響を他の地点よりも抑えることができる。また、①は他と比較して道路の混雑度が比較的低く、付近に渋滞が発生しやすい地点もないため、交通面でも条件が良い。よって、周辺環境の観点では、①が最も評価が高いと言える。

※ 各地点の条件ごとの評価については、35頁の「条件整理と評価」にて整理

(3) 候補地の選定

以上の考察・評価の結果から、「①国道 372 号沿線（播但連絡道路東側）」を候補地として選定した。今後、用地取得に際し地元や地権者の方々にご協力いただき最終的な整備地を決定する。

候補地の地図



電子地形図(国土地理院)を加工して作成

【考察・評価の参考資料】

条件整理と評価

整理する条件 比較指標		評価				
		①国道 372 号沿線 (播但連絡道路東側)	②国道 312 号沿線 (国道 2 号以南)	③国道 372 号沿線 (花田町小川付近)	④花田御着停車場線沿線 (花田 IC 付近)	
集 客 性	前面道路交通量	◎ 18.9 千台/24h	○ 14.7 千台/24h	◎ 18.9 千台/24h	○ 15.9 千台/24h	
	アクセ スの容 易性	幹線道路との 接続	◎ 花田 IC 近接 国道 372 号	○ 国道 312 号	○ 国道 372 号	◎ 花田 IC 近接
		視認性	◎ 周辺が農地	○ 工場や住宅、農地が点在	△ 店舗が多い	◎ 周辺が農地
		交通環境（車 線数・車道部 幅員・歩道部 幅員）	◎ 車線数：2 車線 車道部幅員：8.0～ 11.0m 歩道部幅員：（両側） 各 4.5～3.0m	○ 車線数：2 車線 車道部幅員：9.0m 歩道部幅員：（両側） 各 3.5m	○ 車線数：2 車線 車道部幅員：9.5m 歩道部幅員：（両側） 各 2.7～3.6m	◎ 車線数：2 車線 車道部幅員：11.0m 歩道部幅員：（両側） 各 3.0m
	市内の観光資源への経由 ルート	◎ 山陽姫路東 IC と市中 心部を結ぶルート上に 位置する	△ 山陽姫路東 IC と市中 心部を結ぶルートから それる	◎ 山陽姫路東 IC と市中 心部を結ぶルート上に 位置する	○ 山陽姫路東 IC と市中 心部を結ぶルートから ややそれる	
事 業 実 現 性	整備可能用地面積	◎ 比較的広い農地が多い	△ 農地が点在	◎ 比較的広い店舗が多い	◎ 比較的広い農地が多い	
	現況用途	◎ 農地	◎ 農地	△ 店舗	◎ 農地	
	敷地 形状	前面道路との 高低差	△ 農地なら造成必要	△ 農地なら造成必要	○ 店舗跡地なら高低差無	△ 農地なら造成必要
		整形・不整形	◎ 整形	△ やや不整形	○ 整形な形状が多い	◎ 整形
	将来の用地拡張性	◎ 周辺が農地	○ 農地が点在	△ 店舗が多い	◎ 周辺が農地	
	用地買収コスト	◎ 市街化調整区域	△ 市街化区域	△ 市街化区域	◎ 市街化調整区域	
	開発上の造成コスト	△ 農業用水路などの開発 上の造成等必要	△ 農業用水路などの開発 上の造成等必要	◎ 造成不要	△ 農業用水路などの開発 上の造成等必要	
	安全 性	浸水想定区域	◎ 浸水想定区域外	△ 想定浸水深さ～0.5m	× 想定浸水深さ～1.0m	◎ 浸水想定区域外
		土砂災害警戒 区域	◎ 区域外	◎ 区域外	◎ 区域外	◎ 区域外
		緊急輸送道路	◎ 緊急輸送道路沿線 (国道 372 号)	◎ 緊急輸送道路沿線 (国道 312 号)	◎ 緊急輸送道路沿線 (国道 372 号)	△ 緊急輸送道路近接
	法 規 制	都市計画	○ 市街化調整区域 ※別途手続必要	◎ 工業地域など ○ 準住居地域 × 第一種中高層住居専用 地域	○ 第二種住居地域など	○ 市街化調整区域 ※別途手続必要
農業振興地域		○ 一部が区域内	◎ 区域外	◎ 区域外	◎ 区域外	
埋蔵文化財 包蔵地		◎ 区域外	○ 一部既知の埋蔵文化財 包蔵地	◎ 区域外	◎ 区域外	
上位計画による まちづくり との整合		◎ 地域活力向上に向けた 取組（総合計画）	◎ 地域活力向上に向けた 取組（総合計画）	◎ 地域活力向上に向けた 取組（総合計画）	◎ 地域活力向上に向けた 取組（総合計画）	
周 辺 環 境	周辺の競合施設の有無	△ コンビニが立地	× コンビニ、飲食等多数 立地	× 飲食、スーパー等多数 立地	△ コンビニが立地	
	周辺景観との調和	○ 農地と店舗が混在	△ 工場や物流センターや 農地が混在	○ ロードサイド店舗が立 ち並ぶ	○ ほぼ農地だが物流セン ターが点在	
	周辺環 境への 影響	周辺の土地利 用	◎ 農地と店舗が混在	△ 工場や物流センターと 旧集落や農地が混在	○ ロードサイド店舗が立 ち並ぶ	○ ほぼ農地だが物流セン ターが点在
		騒音問題の 課題	◎ 周辺に集落なし	△ 集落が点在する	△ 宅地開発が進んでいる	△ 西側に集落あり
		交通問題の 課題	◎ 混雑度：1.02～1.07	○ 混雑度：1.10	× 混雑度：1.20～1.31	× 混雑度：1.19～1.27
	渋滞状況	◎ 付近に渋滞が発生しや すい地点がない	△ 花田御着停車場線、国 道 2 号との交差点で渋 滞が発生しやすい	△ 国道 312 号（国道 2 号以北）との交差点で 渋滞が発生しやすい	△ 国道 372 号との交差 点で渋滞が発生しやす い	
総合評価		◎	△	△	○	

7 整備・管理運営手法

(1) 整備・管理運営手法の検討にあたり

「道の駅」は、安全で快適に道路を利用するための道路交通環境の提供、地域のにぎわい創出を目的とした施設であり、特に近年は地域のにぎわい創出への効果が注目されている。

令和2年7月現在、全国に1,180の道の駅が設置されている他、類似施設も多く、利用者確保の競争が激しさを増している。

このような道の駅を取り巻く状況から、行政のノウハウだけでなく、高い集客性を長きにわたって維持していくためにも、本事業での民間事業者との連携は不可欠であるとする。

(2) 事業スキームの検討

本事業のスキームとして、従来方式（直営方式）に加え、官民連携手法として、DB+O、DO方式等が考えられる。

それぞれの方式の特徴を以下にまとめる。

	概要	メリット	デメリット
設計委託 + 工事請負 + 公共直営 〔従来方式〕	公共が設計と施工をそれぞれ発注 運営も公共で直営	<ul style="list-style-type: none"> ● 管理運営責任が明確 ● 事業の信頼性・継続性が高い ● 政策実現に向けての事業運営が容易 	<ul style="list-style-type: none"> ● 管理運営の視点が設計・建設に反映されない(管理運営が非効率になる) ● 事業環境に応じた雇用形態の柔軟な対応が難しい ● 多くの収益確保や拡大が行いにくい ● 設計・建設・運営を分割発注となるため行政手続きの負担が増大
DB+O 〔設計施工 一体発注 + 管理運営委託〕	公共が設計・施工を発注 運営は指定管理方式等	<ul style="list-style-type: none"> ● 建築物の設計意図が詳細まで反映されるため、施設の質は高くなる ● スケジュール管理が容易 	<ul style="list-style-type: none"> ● 運営を行う事業者と設計・施工が行う事業が異なるため、設計・施工に運営者の要望や意向が反映されにくい
DO方式 〔指定管理者 制度の変則型〕	公共が指定管理者と設計を一体発注 もしくは指定管理者を先行して選定し、設計への協力を義務付け	<ul style="list-style-type: none"> ● 指定管理者のノウハウを活かしやすく、質の高いサービスを提供できる設計が可能 	<ul style="list-style-type: none"> ● 指定管理者の意向が特殊な場合等では、将来的な可変性の考慮等公共が関与する必要がある。

この他、道の駅整備にあたっては、PFI 法に基づいた手法による整備も行われているが、本事業では、事業規模が大きくないため、民間資金活用の二ーズ、メリットが小さく、整備費を市で負担する上記の手法が適切と考えている。

今後も、民間事業者へのヒアリング等を通じて、効率的かつ効果的となるような道の駅整備・運営管理について検討を続けていく。

8 今後のスケジュール

一般的な整備手法である従来方式を採用した場合のスケジュールを以下に示す。

今後、「(仮称) 道の駅姫路」の実現に向け、地域の主体的な参画及び官民連携での事業スキームや、脱炭素型施設としての整備、広域的な防災拠点となる防災道の駅の認定条件の整理等の具体的な検討を行っていく中で、整備手法や整備規模、用地取得等の進捗により、下記スケジュールは大きく変わる可能性がある。

整備スケジュール

		事業年度					
		R03 (2021)	R04 (2022)	R05 (2023)	R06 (2024)	R07 (2025)	R08 (2026)
基本計画		●————●					
造成	基本設計	●————●					
	実施設計	●————●					
	造成工事	●————●					
建築	基本設計	●————●					
	実施設計	●————●					
	建築工事	●————●					
供用開始		R08(2026)年度開駅 ●					

資料編

兵庫県下における道の駅の設置状況

※国土交通省近畿地方整備局 HP をもとに作成（一部 全国道の駅連絡会、各駅公式 HP を参照）

No.	駅名	所在地	地域	道の駅登録	主な機能・特徴	駐車台数				トイレ		
						普通車	大型車	障害者	その他	男性	女性	多目的
1	はが	宍粟市	西播磨	第1回	H5.4 ・食堂 ・特産品コーナー	17	3	4	バイク 駐車場 EV充電器：1	7	5	2
2	あさご	朝来市	但馬	第1回	H5.4 ・レストラン ・物産館 ・イベント広場	55	6	2	EV充電器	10	6	1
3	ちくさ	宍粟市	西播磨	第1回	H5.4 ・レストラン ・売店 ・ドッグカフェ ・ドッグラン ・ミニキャンプ場 ・手ぶらでBBQ	57	2	1	EV充電器	4	4	1
4	神鍋高原	豊岡市	但馬	第1回	H5.4 ・売店 ・農産物直売所 ・お食事処 ・温泉	115	4	2	EV充電器：1	10	17	1
5	村岡ファームガーデン	香美町	但馬	第1回	H5.4 ・レストラン ・特産品売場 ・研修室 ・イベント広場	60	4	2	EV充電器	8	9	1
6	やぶ	養父市	但馬	第4回	H6.3 —	24	9	4		7	7	2
7	但馬楽座	養父市	但馬	第10回	H8.4 ・和牛レストラン ・中華料理店 ・コンビニ ・宿泊施設 ・温泉	100	5	2	EV充電器	18	12	1
8	みなみ波賀	宍粟市	西播磨	第10回	H8.4 ・レストラン ・売店 ・青空市 ・製造体験室 ・観光コンシェルジュ	67	2	2	EV充電器	10	6	1
9	しんぐら	たつの市	西播磨	第11回	H8.8 ・レストラン ・物産館	17	4	1	EV充電器	8	7	2
10	杉原紙の里・多可	多可町	北播磨	第11回	H8.8 ・レストラン ・物産館	16	4	2	EV充電器	5	5	1
11	あおがき	丹波市	丹波	第12回	H9.4 ・喫茶、軽食 ・売店 ・特産品コーナー ・農産物直売所 ・丹波布伝承館	35	8	3	EV充電器	7	6	2

	駅名	所在地	地域	道の駅登録		主な機能・特徴	駐車台数				トイレ		
							普通車	大型車	障害者	その他	男性	女性	多目的
12	八千北	香美町	但馬	第13回	H9.10	・レストラン ・売店 ・親水、新緑ゾーン	20	14	2		7	4	2
13	あわじ	淡路市	淡路	第13回	H9.10	・レストラン ・ファーストフードコーナー ・売店	70	10	2		19	17	2
14	みき	三木市	北播磨	第14回	H10.4	・レストラン ・特産品売場 ・土産品売場 ・金物展示館	180	18	3		21	20	2
15	うずしお	南あわじ市	淡路	第14回	H10.4	・レストラン ・売店 ・淡路島バーガーショップ	45	4	2	サイクルスタンド：20	22	13	2
16	播磨いちのみや	宍粟市	西播磨	第15回	H11.8	・レストラン ・売店 ・郷土芸能展示室 ・観光コンシェルジュ	36	2	2		8	6	1
17	フレッシュあさご	朝来市	但馬	第15回	H11.8	・展望レストラン ・物産販売コーナー ・展望デッキ	105	25	2	EV充電器：1	19	16	3
18	宿場町ひらふく	佐用町	西播磨	第15回	H11.8	・レストラン ・地域特産物販売所 ・サイクルステーション（メンテナンススペース、更衣室、コインロッカー）	54	5	2	EV充電器：1 二輪車：8 サイクルラック：5	11	6	2
19	あゆの里矢田川	香美町	但馬	第15回	H11.8	・レストラン ・農林水産物直売、食材供給施設 ・親水エリア ・キャンプ場 ・RVパーク	12	4	1		6	4	2
20	とうじょう	加東市	北播磨	第15回	H11.8	・レストラン ・ラーメン店 ・売店	100	15	3	EV充電器 ロードバイクスタンド	6	5	2

	駅名	所在地	地域	道の駅登録		主な機能・特徴	駐車台数				トイレ		
							普通車	大型車	障害者	その他	男性	女性	多目的
21	いながわ	猪名川町	阪神北	第16回	H12.8	・食事処 ・そばの館（手打ち体験） ・地域農業情報センター ・農産物販売センター	98	3	2	EV充電器	6	4	2
22	東浦ターミナルパーク	淡路市	淡路	第17回	H13.8	・カフェ ・物産館 ・陶芸体験館 ・中浜稔猫美術館 ・浦海浜公園、浦県民サンビーチ	113	9	4		20	12	3
23	北はりまエコミュージアム	西脇市	北播磨	第17回	H13.8	・レストラン ・物産販売コーナー	50	3	2		6	4	1
24	あいおい白龍城	相生市	西播磨	第17回	H13.8	・レストラン ・特産品売場 ・温泉	46	2	3	EV充電器：1	8	4	3
25	淡河	神戸市	神戸	第18回	H14.8	・レストラン ・物販コーナー	21	2	2		5	5	1
26	丹波おばあちゃんの里	丹波市	丹波	第21回	H17.8	・レストラン ・特産品直売所 ・芝生広場	91	13	3		10	10	2
27	但馬のまほろば	朝来市	但馬	第21回	H17.8	・レストラン ・フードコート ・物産販売所 ・埋蔵文化財センター（勾玉づくり体験など）	137	27	3	EV充電器	19	36	4
28	ようか但馬蔵	養父市	但馬	第22回	H18.8	・レストラン ・地元農林水産物直売所 ・お土産処 ・テイクアウトコーナー ・足湯	114	18	2	EV充電器	12	11	2
29	みつ	たつの市	西播磨	第32回	H21.7	・展望レストラン ・物産販売所	100	6	2	EV充電器：1	6	4	2
30	あまるべ	香美町	但馬	第37回	H24.3	・レストラン ・特産品販売所	52	4	1		6	4	1

	駅名	所在地	地域	道の駅登録		主な機能・特徴	駐車台数				トイレ		
							普通車	大型車	障害者	その他	男性	女性	多目的
31	福良	南あわじ市	淡路	第39回	H25.3	・レストラン ・軽食、喫茶 ・地場産品販売所 ・うずしおクルーズ ・うずの湯（足湯） ・淡路人形座 ・展望台	49	6	4	EV充電器	9	5	2
32	山田錦発祥のまち・多可	多可町	北播磨	第44回	H27.11	・軽食 ・特産品農産物直売所 ・休憩所	22	4	2	EV充電器	4	5	1
33	神戸フルーツ・フラワーパーク 大沢	神戸市	神戸	第45回	H28.4	・レストラン ・食堂 ・カフェ ・売店 ・足湯 その他、バーベキュー・ホテル・結婚式場・遊園地・果物狩り等の施設を併設	630	15	15	EV充電器：1	34	23	10
34	山陰海岸ジオパーク浜坂の郷	新温泉町	但馬	第46回	H28.10	・食堂 ・直売所 ・精肉店（但馬ビーフ）	40	4	1	EV充電器	6	7	2
35	銀の馬車道・神河	神河町	中播磨	第47回	H29.4	・軽食 ・売店（アンテナショップ等）	21	7	2	EV充電器	7	7	1

